

日程：2022年1月27日 13:30～18:30 (UTC+1)：各委員会  
28日 9:00～18:30 (UTC+1)：各委員会  
29日 9:30～18:30 (UTC+1)：総会  
30日 9:30～13:00 (UTC+1)：総会

場所：ベオグラード、セルビア（フィジカル）＋リモート（ZOOM）

総会参加国（リモートを含む）：アルゼンチン、オーストリア、ブラジル、ブルガリア、中華人民共和国、チェコ、デンマーク、スペイン、フィンランド、フランス、香港、ハンガリー、イラン、イタリア、ラトビア、北マケドニア、ノルウエー、フィリピン、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、スロベニア、セルビア、スイス、タイ、台湾、トルコ、英国、米国、日本。

委任：ドイツ⇒スイス、カナダ⇒米国。

## CIVL 関連

1) 2021年の公認大会（ポイント計上した）は217であった。2020年は130であったので持ち直してきているが、コロナ前の2019年の326のレベルにはまだ戻っていない。

2) EMS（Event Managing System：CIVLが開発した言ってみればAirTribuneのようなもの）が完成し、2021年12月から無償で利用可能となった。ドメインは、<https://civlcomps.org>。ボタン一つでフライマスターのライブトラックと接続でき、FAIのデータベースにアクセスして参加選手のスポライを確認することが可能。また大会結果をエクセルあるいはFSD形式でCIVLに送ってWPRSランキングに反映することも可能となる優れたもの。これまでの、人海戦術的なWPRSポイントの計上方法では、例えば、同一選手が2つ以上のCIVL IDを持っていたり、同一のCIVL IDを持っている選手の国籍が異なっていたりと、正しいポイント計上が出来ないなどの不都合があったが、今後はEMSを使用することでこのような弊害を避けることができる。従来のWPRSランキングサイト（[civlrankings.fai.org](http://civlrankings.fai.org)）はまもなく閉鎖される予定（[civlcomps.org](https://civlcomps.org)で閲覧可能）。

EMSが完成したことによりS7共通に2.5.16 EMSとして次の文言が加えられることとなった。

「EMSを使用することは必須ではないが推奨される。カテ1とそのテスト大会では、エントリー、選抜、すべての書類の公表、および結果に関してはこれを使用することを必須とする。CIVLはEMSのそ

の他の機能も使用するようにより要求できるものとする。

また、

- ・初めてカテ2に参加する選手はあらかじめ CIVL ID を取得しておかなければならない。
- ・選手は、すべての情報を正しく入力する必要がある。civilcomps.org に正しく登録されていない選手は、大会のランキングで処理されない。
- ・主催者は、エントリー時および結果の送信時に CIVLID が正しいことを確認する必要がある。

施行日：2022年3月1日」

3) 2020年5月から始まったWPRSポイントの時間による減額システムの凍結は2021年11月に終了した。元に戻るには18か月ほどかかる。

4) この総会は2022年1月中旬であるため、監査済みの財務情報はまだ手に入っていないので、最終的な決算はまだできていないが、予想としては、収入は970万円（パンデミックであった2020年（520万円）の約1.9倍（主としてカテ2大会が多数開催されたため）、支出は1010万円（2020年（1270万円）と比較して少なかった（主としてスポーツの発展とジャッジトレーニングに対する支出が減ったため））でバランスはマイナス40万円。その結果繰り越し金額は2700万円となる。これまで CIVL の財政は健全でスポーツの発展のため、ここ数年はバランスがマイナスとなっていたが、数年先を考慮すると、財政の健全化を検討する必要がある。

5) 2023年度予算にかんして（FAIの方針で、予算は2年前にFAIに提出となっているため2021年のCIVL総会では2023年度予算を審議することになる）、収入1100万円その内訳（大会公認料：950万円（86%）（カテ1：230万円、カテ2：720万円）、IPPIカード：160万円（14%）、支出1490万円その内訳（事務局：390万円（26%）、大会関連（メダル・役員派遣）：340万円（23%）、ソフト・ジャッジとレーニン：290万円（19%）、理事・委員長旅費：200万円（13%）、その他：270万円（18%）で、バランスとしてマイナス380万円。

マイナス380万円を何とかバランスする手立てを考えなければならないと、議論されたが結論は出ず持ち越しとなり予算案は承認された。

6) カテ2大会193大会。そのうち34大会でインシデント発生。合計64インシデント。その内訳は；29：無傷、23軽傷、9重症、1死亡（クラヴァットからスピンに入りレスキューを投げるがハーネスから引き出せなかった）。

7) 2021年の総会は、リモートで行われ、これまで総会に参加したことのない国も参加してきたことは良いことであった。一方、対面で行われた年度中間理事会は、リモートにはないメリットも多かった。そこで、両方の良いところをとれるようにリモートによる会議を首尾よく運用するための機材（カメラ、音響装置）を購入し、2022年総会で使用された。

8) CIVLから大会に派遣される競技役員に対する旅行傷害保険が2022年1月から手当できることになった。費用はCIVLが負担する。

9) 会員資格が停止あるいは失奪（主にFAIの会費の支払いが遅れているあるいは支払っていない）されているあるいはFAIスポライの発行を渋っているNACによる不都合（大会が公認されないためWPRSポイントが獲得できない、あるいはスポライが無いため公認大会に参加できずWPRSポイントが獲得できない）が長年継続している。FAIによる改善策を要求しているが、いまだに解決されていない。

10) S7の文言をジェンダーニュートラルなものに書き換えることとする（ボランティアを募って出来るところから始める）。

11) CIVLのインスタグラムのアカウント（@fai.civil）が開設された。

12) FAIスポーツメダルは、第3回PGアクロバット世界選手権を主催したAero Club Lega Piloti, Aero Club Blue Phoenix and Volo Libero Friuli ASDを推薦することとなった。

13) PGXC委員会の委員長にアメリカのBill HUGHESが選出された。

14) 次回総会は、2023年3月2～5日の日程でポルトガルのポルトで開催されることとなった。

## **HG・PGXC・PGA関連**

1) S7共通の2.5.2 Individual Entryに関して

現行の「現世界および大陸チャンピオン、男子および女子、そしてPGXC大会においてはWPRSランキングの女子トップ5はタイトルを防衛するために、チームメンバーとして選ばれていない場合はNACの承認があれば、任意にエントリーする事が出来る。」となっているのを「現世界および大陸チャンピオン、男子および女子、そしてPGXC大会においてはWPRSランキングの女子トップ5はタイトルを防衛するために、チームメンバーとして選ばれていない場合はNACの承認があれば、各国1名のみ任意にエントリーする事が出来る。」に変更して承認された。

2) アロケーションに関して S 7 A(XC),B(アクロ),C(アキュラシー)で若干の違いがあるが、大会開始 60 日前までに終了するとなっている。しかし現実には、事故や病気などで参加できなくなった選手の枠を大会直前まで割り当てることが行われている。これを各種目で統一かつ改善するために、「アロケーションは大会開始 3 か月から 2 か月の間で行われる。正確な締切日はローカルルールに明記される。2 か月の締め切り以降大会開始 14 日前までは、空いている枠は通常のアロケーションルールにより割り当てられる。締め切り 14 日以降、大会最初のタスク/ラウンドのパイロットブリーフィングまでは、ある国に枠の空きが生じた場合は、その国の選手によって空きを埋めることができる。」に統一することとなった。

3) S7 共通に 2.2.1 Categories として、

「・カテ 1 およびカテ 2 大会として以下のカテゴリーで執り行われることが可能：個人、チーム、総合、男子、女子、ジュニア。

・選手の性別に関しては国の発行する身分証明書に掲載されているものとする。

・ジュニアカテゴリーはジュニア U-XX (XX 歳以下) と呼称される。年齢は選手が誕生日を迎える暦年で決定される。そのカテゴリーは：

XC：ジュニア U-26

アキュラシー：U-26

アクロバット：U-23 とする。」を加えることが承認された。

## HG 関連

1) クラス 1 パンアメリカン選手権 (ビッグスプリング、アメリカ) はコロナのため中止 (延期ではない) された。

2) クラス 1 ヨーロッパ選手権 (モンテクッコ、イタリア) はコロナのため 2022 年 7 月 10 ~ 23 日に延期された。

3) クラス 1 世界選手権 (クルシェヴォ、北マケドニア) は 2023 年に延期され、その結果 2023 年にスペインのアジュールで開催されることが決定されていた世界選手権は 2025 年開催として新たに 2023 年の総会で立候補することとなった。

4) クラス 2 の世界選手権 (フランスのアスプレシュールブエクで 2022 年 7 月 23 日 ~ 8 月 6 日の

日程で開催)を了承した理事会決定が本総会で承認されたため開催されることとなった。

5) S7A の 2.2.1.3 Class 5 (大会参加資格)に関して、現在「選手権開始の3暦月前であるランキング基準日以前の36か月において: 1) ハングクラス1, 2あるいは5で最低でもWPRSポイント20点を取得していること。2) 30人以上が参加したカテ2大会に少なくとも1回、クラス5の機体で飛んでいること。」となっているところを、「選手権開始の3暦月前であるランキング基準日以前の36か月において: 1) ハングクラス1, 2あるいは5で最低でもWPRSポイント20点を取得していること。2) 30人以上が参加したカテ2大会に少なくとも1回参加していること。ただし30人の人数制約は複数クラスの併催でも可とする。また、参加するクラスは問わない。」とすることとなった。

## HG・PGXC関連

1) ソフトウェア作業部会からの提案、「これまではタスク距離は、スピードセクションの最短距離に、スピードセクションの前の最短距離とスピードセクションの後の最短距離を足したものとしているが、これをタスク距離は、テイクオフからゴールまでの最短距離とし、スピードセクション距離をテイクオフからESSまでの最短距離からスピードセクション前の最短距離を引いたものとする。」は承認された。

2) 記録・記章役員からの提案、「S7Fにおいてトラックログのレコードインターバルに関して、5秒となっているところをすべて1秒に変更する。」は承認され、同様の表現がS7Dにもあるのでそれも併せて変更することとなった。また、スロベニアからの提案、「S7A 4.4.1 Minimum Track Log Points中の5秒を1秒に変更する。」も併せて承認された。

3) ドイツからの提案、「ターンポイントとCTRで異なるトレランスを使用しているが、同じとする。」は取り下げられ、制限空域に関する距離計算の基準を設定するために、GPSメーカーとCIVL代表からなる作業部会を設置して協議することとなった。

4) ブルガリアからの提案、「世界選手権およびヨーロッパ選手権における最大参加人数を安全上の理由(空中接触を避ける)から現行の150人から130人に縮小する。」は、S7Aの2.1 ENTRYの「許容される参加選手の最大は150名とする。」文言を「許容される参加選手の最大は130名とする。この数値は開催立候補する際に例外的に増やすことができる。施行日: 2025年1月1日」と改定することに修正され承認された。

5) スロベニアからの提案、「S 7 A 雲中飛行の罰則に関して、現行：1 回目そのフライトゼロ、2 回目大会失格を、1 回目 1 0 点、2 回目計算式(1 0 0 0 \* min(1,(1-1.05depth)/(1-1.05f))ここで f=100)、3 回目大会失格とする。」は承認された。

6) スロベニアからの提案、「S 7 A の 6.3 Specific Penalties に、タスクキャンセルとなった場合でも、そのタスクにおいて違反をした場合は、1 回目の罰則として、警告を受けることとする文言を追加する。」は承認された。

7) スロベニアからの、S 7 A 制限空域に関する罰則に関する提案は、上記 3) ドイツからの提案とも関連しているので、制限空域に関する距離計算の基準を設定するために、GPS メーカーと CIVL 代表からなる作業部会を設置して協議することとなり取り下げられた。

8) スロベニアからの提案、「S 7 共通の 1 4 W P R S に関して、現行：ジュニアクラスが XC では 2 5 歳以下、アキュラシーとアクロバットでは 2 3 歳以下となっているものを、すべてにおいて 2 6 歳以下とする。」は、上記、HG・PG XC・PGA 関連の 3) で承認された文言に合わせて、ジュニアに関して、XC とアキュラシーでは U-26 とし、アクロでは U-23 とすることで承認された。

9) スロベニアからの提案、「S 7 A の 3. 3. 9 Relaunch の 1 行目の「ローカルルールに明記されていない限り、選手は 1 回のみテイクオフする事が出来る。」を、「ローカルルールに明記されているかその日のパイロットブリーフィングでアナウンスされていない限り、リランチすることは許されない。」と修正されて承認された。

1 0) イギリスからの提案、「HG および PG の大会は長い歴史(カテ 2 で新しい試みを試し、うまくいったらカテ 1 で実施するといった)の中で発展してきたが、カテ 2 の大会は千差万別で、特に安全面での不安もあるので大会の核となるスタッフ(大会委員長、競技委員長、安全委員長など)のトレーニングと資格検定システムを作成するための作業部会を立ち上げ予算をつけて 3 年をめどに活動する。」は、理事会主導で、有能でやる気のあるメンバーを選抜して作業部会を立ち上げ、ある程度予算措置(約 4 0 万円)をして、部会の活動ルールを作成し、予想される成果を理事会に上程し、承認を受けて作業を開始し定期的に進捗状況を報告することで、提案としては取り下げとなった。

1 1) ブルガリアからの提案、「リーディングポイントの計算はどこからスタートしてどこで終わるかを明確化するためにタスクボードにスピードセクションの距離を明記する。」は、S7I (Guidelines and Templates) に XC Task Board Template を新設し、そこに注釈としてスピードセクション距離を含むこ

とが推奨される（必須ではない）との文言を入れることで提案は取り下げられた。

1 2) スコアリングソフト F S の最新安定版は <http://fs.fai.org/trac/wiki/FS2021R1.2>。

1 3) 時期スコアリングソフトと目される AirScore(<https://airscore.cc/>)はほぼ完成。

1 4) 2 0 2 1 年においてカテ 1 で使用可能な、計器が 2 個追加された。現在使用可能な計器のリストは、<https://www.fai.org/page/civl-xc-instrument-accepted>

1 5) 長いこと新しいスコアリング計算式の必要性が協議されてきているが、なかなか先に進まない。そこで理事会主導で、大会を企画しこれまでに提案された計算式の実用性を評価することを模索する（2 0 2 2 年に 2 大会を企画していると総会終了時に説明があった）。

1 6) フランスからの、S7D の 7.1 SOARING TASK DECLARATION FORM にエアースペース違反を防ぐ目的で、予想される飛行空域に問題となるエアースペースがあれば、それを明記することとする提案は、パイロットの負担が多くなることで不評を買い否決された。

## PGXC 関連

1) 5 月に予定されていた世界選手権（クールドサヴォワ、フランス）がコロナのため 2 0 2 3 年に延期され、急遽理事会とアルゼンチンの主催者との努力により、コロナパンデミックの中、唯一開催されることとなった PGXC 世界選手権（ロマボラ、アルゼンチン）。何とか成功したものの多くの問題が噴出し、それに基づく提案が今 CIVL 総会に上程された。

2) ドイツからの提案、「大会で使用されるハーネスに関しても、機体（CCC クラス）と同じような制限を加える。」は取り下げられ、S7A の 8.5.1 Harness を「カテ 1 大会に参加するには、ハーネスとバックプロテクターの組み合わせは、大会開始 9 0 日以前に LTF09 あるいは EN 1 6 5 1 : 2 0 1 8 以降の基準によって認証されていなければならない。CIVL は指標となるリストを公開する。」に変更して承認された。

3) 承認された選手権は以下の通り；

・第 1 7 回 PGXC ヨーロッパ選手権（ペガラハル、スペイン：2 0 2 4 年 6 月 1 6 ~ 2 9 日）

・第 6 回 PGXC パンアメリカン選手権（ラリオハ、アルゼンチン：2 0 2 4 年 1 0 月 5 ~ 1 2 日）ただし、「テイクオフエリアがほぼフラットで、その先が崖である、またテイクオフエリアの後ろが木に覆われ、岩の多い急斜面でテイクオフで吹き飛ばされた場合危険である。広さとして 2 機が広げられる程度

しかない。また緊急ランディングできるほどの広いエリアが少なく、回収道路も少ないので回収に時間がかかる。2021年10月のPWCでアウトランした選手の救出が翌日になった実績がある（ヘリコプターは利用できなかった）。などなどの問題があるので、これらを解消するという条件付きでの承認とする。テスト大会までに解消すること。テスト大会前に主催者側の負担で CIVL から1名以上の評価者を送る。」との理事会からの条件が付けられた。

- ・第1回 PGXC ジュニア世界選手権（トルミン、スロベニア：2024年8月18～31日）
- ・第1回 PGXC アジアオセアニア選手権（ムンギョン、韓国：2024年6月）

## PGA 関連

1) 世界選手権（プリレップ、北マケドニア）がコロナ下に関わらず、これまでで最も多い国が参加し開催され、悪天候に苦しめられたが3ラウンド成立して世界選手権として成立した。斜面からとウインチによる発航方法が採用されたが、ウインチの気象条件への対応力が再確認された。

2) カテ2大会も新しい国で多数開催され（特にラテンアメリカ、中東）アキュラシー競技の地球規模の発展が期待される。

3) 委員会からの「S7C から9章 Judging Code を切り離して、独立した書類とする。」提案は承認された。

4) 承認された選手権は、

- ・第8回 PG アキュラシーヨーロッパ選手権（レニングラード、ロシア：2024年9月12～21日）
- ・第1回 PG アキュラシーパンアメリカン選手権（ピエデチンチェ、コロンビア：2024年8月9～17日）